

戦後日本における農業機械化と農業労働組織の変容

—市場との媒介者に注目して—

芦田 裕介

(京都大学大学院農学研究科博士後期課程)

2012年5月



京都大学グローバル COE

「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

Email: intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp URL: <http://www.gcoe-intimacy.jp/>

アブストラクト

本稿の課題は、岡山県津山市におけるフィールドワークにもとづき、戦後における農業機械化による農業労働組織の変容について、農業労働組織と市場をつなぐ媒介者に注目して把握・分析することである。

農家にとって農業機械は、収量増加、経営拡大、兼業化による作業時間の短縮の必要性といった理由から必要不可欠なモノとなった。媒介者である農業機械メーカーの販売員は、農家のニーズを汲み取って農業機械の普及を推進したことにより、従来の農業労働組織における変化を促した。その一方で、販売員は機械を用いた農家の農作業を支えてきた存在であった。とりわけ高齢化の進行や後継者不足によって農業の存続が厳しい状況になるほど、農業生産を維持していくために販売員のもつ知識やスキルの重要性は高まる。

従来の研究において、農業機械化に伴う村落の人間関係の変化を考える場合、村落内部の家族関係や社会関係の変化に注目することが多かった。しかし、本稿で注目した販売員のように、市場と農業労働組織をつなぐ媒介者の存在に目を向け、その可能性を積極的に評価し、外部の市場との関係を組み込んで農業及び農村社会を支えていく仕組みを考えていくことが、今後の農村社会の研究には必要だと考えられる。

キーワード：農業機械、農業労働組織、媒介者

2010年度次世代研究「戦後日本農村における農業機械化と農業労働組織の変容
——親密圏と公共圏の媒介者に注目して——」（研究代表：芦田裕介）による成果
である。

【メンバー】（ ）内は2010年度プロジェクト時点

芦田 裕介（京都大学大学院農学研究科博士後期課程）